

## 総 評

昨年度までの大問 4 つから大問 5 つへの変更があった。関数・図形では、小問 4 つの中最後の 1 つは正答率が 0% に近いような難問が例年出題されていたが、その難度の問題が消え、代わりに第五問で規則性の問題が 4 年ぶりに出題された。難問はないものの、第 2 問で点数が取りにくく、関数や規則性の問題設定がやや複雑で文章量も多いことから、平均点は 50 点前後と思われる。

## 難易度・出題形式

【第一問】計算問題、2 次方程式、関係を表す式、資料の整理と活用、 $y=ax^2$ 、求角 〈易～標準〉 33 点

- 7 【前期選抜対策ゼミ第 2 回第一問 8】と最頻値・中央値・平均値の大小を選択肢から選ぶ形式までほぼ同じである。
- 8 「変域の問題はまずグラフをかこう」というのが生徒たちには浸透しているので正しく解けるが、なんとなく代入してみるだけでは解けない。

## 【第二問】比例と反比例、確率、連立方程式、空間図形 〈易～やや難〉 29 点

- 2 【実戦ゼミ第 11 回第一問 6】をはじめ、中 3 の春・夏・冬と、確率には季節の講習会でもメインテーマの一つとして力を入れている。宮城の入試では全部で 36 通り程度までにしかならないので、書き出てしまえばいいことを生徒たちは学んできている。
- 3 【冬期講習会第 2 期 15】の設定がほぼ同じである他、中 3 の春・夏・冬と、方程式には季節の講習会でもメインテーマの一つとして力を入れている。問われていることに対して正しく答えたい。
- 4 【前期選抜対策ゼミ第 2 回第二問 3】で、円錐側面のおうぎ形の中心角は出せるようになっている。

## 【第三問】平面図形 〈標準～やや難〉 15 点

## 【冬期講習会第 1 期 P16-8】と設定やベースの図形がそっくり。

- 1 相似証明。平行線があるので錯角同位角を狙うのは生徒たちに染み付いている。
- 2 難しいが、冬期講習会の成果を問われる問題。何度も練習してきた。
- 3 難しいが、相似比⇒面積比、高さ共通：底辺比=面積比など、何度も練習してきた。

## 【第四問】一次関数 〈易～やや難〉 12 点

今回出題の「水量の変化に関する問題」は、【実戦ゼミ】で 4 度、【前期選抜対策ゼミ】で 1 度、【夏期講習会第 2 期】で 6 度、【冬期講習会第 2 期】で 3 度など、重点的に対策を行ってきた。

さらに、途中で変化の仕方が変わる問題は宮城県の入試では定番であり、【前期選抜対策ゼミ第 1 回第三問】でも同様のパターンを練習している。

## 【第五問】規則性 〈易～やや難〉 11 点

【通常授業で使用している入試対策テキスト】の弱点対策ページで、同様の考え方を勉強している。【実戦ゼミ】でも 4 度規則性の問題に取り組んでいるため、それほど驚くことはなかっただろう。計算自体は中 3 で習う「展開」を一部用いるが、考え方を学ぶのはむしろ中 1・2 の時期だけである。

## 【点数内訳】

中 1 内容 28 点 中 2 内容 37 点 中 3 内容 35 点